

毎年11月から12月にかけて、センターに「海鳥が飛べずにいる」と連絡が入ります。保護地は全て会津・中通り地方。一体何が起きているのでしょうか。

山越えをするオオミズナギドリ

オオミズナギドリは全長約50cm、羽を広げると120cmにもなる海鳥です。

春に日本近海の小島で繁殖し、秋にフィリピン近海などで越冬します。繁殖期に巣にいる時間以外は生涯、海上で生活しています。

細長い翼でグライダーのように風をとらえ、海面すれすれを滑るように飛びます。その様子がなみなた雉刀で水を切るように見えることから「大水雉鳥」と名前が付いたと言われています。

令和3年度はオオミズナギドリの保護数が8羽で比較的多い年でした。保護地は全て会津地方でした。そして全て巣立ったばかりの幼鳥でした。ここで謎が生まれます。「海鳥であるオオミズナギドリが、なぜ内陸で保護されたのでしょうか。」



写真1 入院時

目立った外傷はなく衰弱していることが多いです



図1 令和3年度 オオミズナギドリの保護地 ●

オオミズナギドリは今まで台風などの強風で内陸に飛ばされて落下していると考えられていました。しかし最近の研究で幼鳥は南の越冬地へ向かうために山越えをするルートを選択していることが分かりました。

親鳥は安全のため遠回りでも海上のルートで先に越冬地へ向かいます。

しかし残された幼鳥たちは経験がなく山越えをして越冬地へ向かいます。

ルートは年によって変わりますが、令和3年度保護されたオオミズナギドリは新潟県粟島で巣立ち、会津地方を通るルートを選択していたと考えられます。

また、オオミズナギドリは長距離飛行をするために筋肉や脂肪を落として体をより軽くなるよう進化してきたといわれています。そのため斜面や高い場所から落下する加速を利用しないと上手く飛び立てません。

つまり謎の答えは「オオミズナギドリの幼鳥が山越えをしている途中に何らかの原因で地上に落下し、飛び立てずにいる」となります。まだまだ謎が多い野生動物。日々解明される動物の生態を考慮して適切な救護活動を行っています。



写真2 放鳥時

令和3年度はいわき市塩屋崎灯台から放鳥しました

あだたら 森の回覧板



Vol. 16 春号

カワラヒワ



【クマ出没注意 ~自分だけのオリジナルクマ鈴を作ろう~】

毎年4月から7月ごろにかけては、ツキノワグマと遭遇してケガを負う事故が多発する季節です。通常、クマは人間よりも先に気づいて逃げていきますが、まれにぱったり出遭ってしまうことがあります。日に日に暖かくなり山林へ行く機会が増えるこの時期は、クマが冬眠から覚めて食べ物を求めて活発になる時期になっています。被害を未然に防ぐために次のような対策をしましょう。

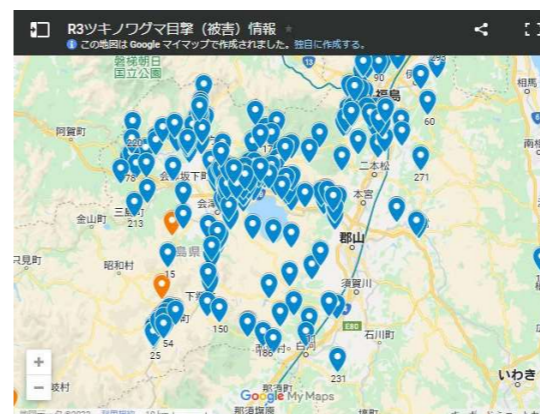
① あなたの住む地域や旅行先にクマの目撃があるか調べよう。

福島県自然保護課のHPでは、県内のツキノワグマ目撃情報を確認することができます。目撃が多い地域や人身事故が起きた地域を訪れるときは十分に注意しましょう。また、訪問先の市町村役場にクマの目撃情報を確認すると、詳細な情報を教えてくれます。

② クマの痕跡や目撃情報があるところでは、鈴やラジオなど音のするものを身につけよう。

クマに人間の存在を知らせるような行動をとることで、ぱったり出遭う可能性を減らすことができます。

★野生生物共生センターではツキノワグマの目撃情報が多い期間、「クマ鈴作り」のワークショップを開催予定です。自分だけのオリジナルクマ鈴を作りに来てください。



福島県ツキノワグマ目撃情報

※青色のピンは目撃情報、橙色は人身被害情報 参考文献：福島県自然保護課



オリジナルクマ鈴



野生生物共生センターでは、野生動物の剥製やパネルの展示、映像放映等をおこなっており、入館料無料で自由に見学・閲覧できます。事前にご相談いただければ、団体でのご利用や職員による解説などの対応も可能ですので、興味をお持ちの方はお問い合わせください。

詳しくは... [HP](#) [環境創造センター](#) [検索](#)

発行：福島県野生生物共生センター
〒969-1302
福島県安達郡大玉村玉井字長久保 67
電話 0243-24-6631
開館時間 9:00~17:00
休館日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)



【動物と新型コロナウイルス】

新型コロナウイルスはオミクロン株による感染拡大の第6波がみられましたが、動物たちはどうでしょうか。

あらゆる動物がそれぞれ固有のコロナウイルスにかかりますが、多くの場合は軽い風邪症状のみみられるだけで、種の壁を越えて他の動物に感染することはほとんどないとされています。

ところが、ヒトで世界的流行を起こしている新型コロナウイルスはコウモリ由来と考えられています。ヒトからは動物園のトラやゴリラ、ペットであるイヌやネコにも感染することが確認され、その多くは軽症や無症状でした。ミンクの農場ではミンクの間で感染が繰り返される中、特有の変異が起きてヒトに感染したことが判明しました。ネコは比較的感受性が高く、少ないウイルス量で感染が成立し、糞内にウイルスが長い間排泄されていることがわかってきました。



野生動物はどうでしょうか。ヒトと距離を置いて生活しているため情報が限られてしましますが、北米に生息する野生シカの間で流行が確認されました。国内のシカやタヌキ、ハクビシンを対象とした調査では感染は認められませんでした。外出したネコを原因とした野生動物での流行が心配されています。

コロナウイルスに限らず、動物はヒトにとって重い症状となる病原体を持っている可能性があります。野生動物を見かけてもエサを与えたり触れたりしないようにしましょう。

ヒトも動物も守るため、動物とは適切な距離を保つようにしましょう。

(厚生労働省動物由来感染症啓発ポスターより)



★トピックス ヒナを拾っちゃいけないの！？～飛べない理由はケガ？～

春から夏にかけては野鳥たちの子育ての季節です。この時期、野生生物共生センターには保護する必要がない野鳥の相談が多くなります。いったいなぜ保護をする必要がないのでしょうか。

子育ての季節ということは、大人になりきれしていない子どもの鳥（ヒナや幼鳥）が増えるということ。

子どもの鳥がすぐにひとり立ちできるかという、そうではありません。人間の赤ちゃんがすぐに歩けないように、子どもの鳥も最初は上手に飛ぶことができないのです。飛ぶ練習をしているところを見かけ、ケガをしているのではないかと心配し連絡をくださる方が増えるのが真相です。

子どもの鳥は巣を出てから上手な飛び方やエサの取り方など、ひとり立ちのために必要なことを親鳥から学びます。そのときに人間が拾って保護してしまうと親子を引き離してしまうことになり、むしろ悪い影響を与えてしまいます。

みなさんも、近寄っても飛び立たない鳥を見る機会があるでしょう。それはケガをしているのではなく、飛ぶ練習中なのかもしれません。私たちからは見えなくても、練習中の子どもの鳥の近くには必ず親鳥がいます。普段空にいる鳥が地面にいて心配かもしれませんが、ケガをしている様子がないようであればそっと見守ってあげてください。もし、車が走っているなど危険な場所にいて放っておけない場合は、巣に戻るか近くの茂みに置いてあげるなど、安全な場所に運んであげてください。

これからの季節、野鳥の子育てを邪魔しないようそっと見守っていきましょう。



・・・ネズミ取りシートになぜ鳥が！？・・・

最近、ネズミ取りシート（以下「シート」という）に絡まった鳥たちが搬送されて来ます。

本来はネズミを捕獲するものなのに、どうしてこのようなことが起きるのでしょうか？

直近の3年間に搬送されたシート絡まり事例を、表1に示します。絡まった鳥のなかには、通常地上に降りない、家屋の中に侵入しない鳥たちがいます。

表1 シート絡まりの搬送動物

年度	動物の種類
R1	チョウゲンボウ、フクロウ ニホンイタチ、イソヒヨドリ シジュウカラ、ミソサザイ ヒヨドリ
R2	ハクセキレイ、チョウゲンボウ ツバメ、シロハラ
R3※	ツバメ（3）

※R4・1月現在



参考例 シートに絡まって搬送されて来た状態

また、小鳥の中には翼の一部が欠損していたり、脚の機能が損なわれているものがあります。これは、シートに絡まった鳥たちが、もがいて障害を負ったり、助けようとした際に救護者がシートから引き離そうとして負った二次的な受傷と考えられます。野生生物共生センターに搬送された鳥たちが、粘着物質の除去作業に耐えて野生に復帰出来るのは53%です。そこで、やっかいなシートの粘着物質の上手な除去方法を紹介します。

粘着物質除去の実施手順

- ①シートに絡まった鳥を細心の注意を払って引きはがします。
- ②鳥に付着した粘着物質に十分小麦粉をまぶして優しくもみ込みます。
- ③小麦粉に食用油を滴下し、もみながら溶け出したらふき取ります。
- ④③を繰り返し行い、最後に中性洗剤などで洗い流します。

シートに絡まった鳥は、これから逃れようとしてもがきます。これがさらに絡まりを増加させてしまうので、頭部に布などを被せて落ち着かせます。

シートから鳥を引き離す時、翼や脚の骨折を誘発しますから細心の注意を払います。羽は抜けても再生しますから心配ありません。

第1次救護の段階で、左述①の際に②③も併せて行ってから引きはがすことも良いでしょう。

粘着物質を取る順序は、脚と翼の領域の粘着物質を取ること

を優先して行います。背や腹は後からやっても良いでしょう。小鳥の場合は、②③の作業を数分以内で行うことが重要です。ぐったりしたり、口を開けて呼吸していたら、作業を中断し保温をしながら安静にして経過を見ます。

粘着物質を取り除く際に、シンナーや灯油などを使って粘着物質を取り除いて搬送される例があります。生体にシンナーなどを使用することはやめましょう。シートに絡まった取りを見つけた場合には、上記のような対処をしてから野生生物共生センターへ連絡してください。

ご意見募集中！

館内展示の充実や今後のイベント検討のため、皆さまのご意見を募集しています。こんなイベントに参加してみたい！東日本大震災が野生生物に与えた影響についてもっと詳しく知りたい！など、ご意見を館内のアンケートにてお聞かせください。アンケートをご記入いただいた方には、野生生物共生センターオリジナルのグッズをプレゼントいたします。

※当該プレゼント企画は予告なく変更・終了する場合があります。